ちとめずらしい都留の自然

都留文科大学教授　上杉　陽

都留は山がちのまあまあ普通の土地であるが、ちと珍しい土地でもある。少し紹介しよう。

一　冬の南風・夏の北風

日本では冬に北風、夏に南風というのが普通である。ところが、都留では冬に南風・夏に北風が意外に多い。冬の南風は南側にある日本一の富士山がひどく冷えて桂川の谷に寒風を吹きおろすためである。夏の北風は富士山が逆に熱せられて桂川の空気を吸い上げるため日本一広い関東平野の熱気を桂川沿いに大月方面から吸い込むためであろう。

二　盛夏の多雨

日本には三回の雨季がある。こんな土地は日本しかない。ちと珍しいどころではない。雨季の第一は梅雨季の長雨・集中豪雨、第二は秋の台風・秋霖、第三は真冬の豪雪である。太平洋側は梅雨季と台風・秋雨季にたくさん雨が降る。日本海側は真冬がすごい。どちらの地域でも盛夏はむしむしするが雨は意外に降らない。ところが、都留市ではこの盛夏にたくさん降る。こういう土地は、旭川・宇都宮・前橋くらいしか例がない。

広報「つる」十月号に都留消防署調べで八月の降水量が載っている。昨年は四六〇ミリ、今年は三五一ミリだったそうである。並の月の約二倍も降るのである。これも富士山があるためであろう。

都留の山地は傾斜がきついし地震も多い。その山地の雨量は平地の五割増しである。当然、崖崩れや鉄砲水が起こりやすい。

三　交錯する堅硬地盤・軟弱地盤

支流の水を集める本流は川幅も広いし高度も低いから洪水の害に遭いやすいのが普通である。

ところが、都留では桂川本流沿いには高台が多く、洪水の害はない。一方、朝日川、菅野川、鹿留川、大幡川といった支流沿いは低地が目立ち、雨が降ると水をかぶりやすい。どうしてであろうか？

これも富士山のせいなのである。富士山は氷河時代最盛期の約一万六千年前に大崩壊を起こし、五合目から上がえぐられ、吉田大沢ができた。その時の土砂はまるでボブスレーのように桂川を高速で走り、厚木市あたりまで本流を埋め尽くし、多数の旧石器人が死んだ。古富士泥流という。やや堅くて地震に強い高台（厚原や原）を残した。各支流は出口をふさがれて湖となってしまった。だから、支流の出口一帯にはいまでも軟弱地盤が多い。約八五〇〇年前には猿橋溶岩が流れ下り、大月市猿橋まで本流沿いの土地を埋めて堅い高台（田原、上谷、中央、つる、下谷など）を残した。支流は出口をふさがれて再び湖（井倉、瀬中など）となった。都留文科大学一帯では溶岩流が金山神社のあたりで山地にぶつかったため、その上流側（バイパスより大学側の土地）が沼地となった。このあたり一帯は断層が走っているせいもあってよく揺れる。

溶岩が魚のウロコのように
けずられた蒼竜峡

約七五〇〇年前には桂溶岩が流れ下り、十日市場まで埋めてしまった。この溶岩は蒼竜峡のところで山地にぶつかって上流をせき止めたから鹿留川合流点から境にかけて大きな湖ができた。桂川の水はやがて満杯となりいっせいに溢れだした。桂溶岩は深く削り込まれ、その下にあった青みの強い猿橋溶岩が峡谷沿いに露出した。蒼竜峡の誕生である。佐伯橋のところでは猿橋溶岩も削られてここに田原の滝ができた。

このように都留市には堅い地盤と軟弱な地盤が複雑に入り乱れているから、都市計画にはこまやかな配慮が必要となる。

郡内地方の中心地として栄えた都留市も縄文時代までは魔の土地だったことを忘れてはなるまい。

教育委員長に　小池利一氏

市教育委員会は、十月九日の定例委員会でこの度、任期満了となった小林次郎委員長の後任に小池利一委員を選任いたしました。また職務代理者には清水寛委員を選出し、両氏は十月十日より就任いたしました。

小池氏は、大正七年四月二十五日に生れ、横浜専門学校高等商業科を卒業後昭和五十四年三月県立吉田商業高校校長で退職するまで長きにわたり教職に就かれました。また、教育行政に深いご理解をいただき、昭和六十二年十月より教育委員に就任し、以来「文化の充実と山梨教育、都留教育の理念が生かされた活力ある教育行政」をモットーに活躍されております。

オリエンテーリング三級指導者講習会

主　催　山梨県オリエンテーリング協会
後　援　山梨県教育委員会
日　時　12月2日（土）～3日（日）
　　午後1時30分受付
場　所　富士緑の休暇村
定　員　30名
費　用　8000円（1泊）
講　師　日本オリエンテーリング委員会公認専門員
　　一木昭男・林辺　智　他
申込・問合先　南都留郡鳴沢村字ジラゴンノ八五三二―五
　　山梨県オリエンテーリング協会事務局
　　☎0555(85)2236